

実践報告

看護学部のFD活動におけるピアレビューの現状と課題

片貝智恵¹⁾，高橋ゆかり¹⁾，渡部洋子¹⁾，長島真由美¹⁾，吉岡一実²⁾

要旨

本学看護学部FD委員会では2009年度の教員相互の授業参観において、授業評価の視点を取り入れた授業参観を実施し、授業参観後に参観者と授業担当者との意見交換会を開催した。参観者・授業担当者ともに、公開授業担当者を全教員対象として、いつでも授業参観可能とした方がよいという積極的な意見が多く、意欲の高さが伺われた。授業参観後の意見交換会は、参観者・授業担当者双方にとって今後の授業内容や教育方法の改善・向上に有効であるという意見であった。今後の課題として、授業評価の視点を取り入れた授業参観の目的の共有化、演習形態の授業参観の方法や評価の視点などがあげられた。

キーワード：FD活動、ピアレビュー、意見交換、教員研修会

I. はじめに

FDとはファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) の略で、教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みの総称である。2008年4月1日より大学設置基準が改正・施行され、「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」(第二十五の三項)と規定され、FDが義務化された(文部科学省, 2007)。

それを受け、本学でも「看護学部FD委員会」(以下FD委員会)が発足し、組織的な取り組みを行ってきた。FD委員会では具体的な取り組みとして、授業評価のための授業アンケートの活用、教員相互の授業参観の実施、教員研修会の開催などを実施してきた。

文部科学省は、毎年「大学における教育内容・方法等の改善について」の取りまとめを行っている。2008年の調査(調査対象：747大学)によると、FDを実施していた大学は727大学(約97%)であった。また、FD活動の中で大きく増加していた内容は教員相互の授業参観であり、実施していたのは371大学であった(文部科学省, 2008)。しかし、教育方法改

善のための授業検討会の開催は293大学に留まり、教員相互による授業評価の実施は150大学(文部科学省, 2008)と、教員相互の授業参観を教育方法の改善や向上のために有効活用しきれていない現状と課題が伺えた。

本学においても同様の傾向が見られたため、FD委員会では2009年度の教員相互の授業参観において、授業評価の視点を取り入れた授業参観を実施し、授業参観後に参観者と授業担当者との意見交換会を開催した。また、教育方法の向上を目的とした教員研修会において、看護学部における教員相互の授業参観の現状と課題を分析し、教員相互の授業参観のあり方を検討したのでここに報告する。

II. FD委員会における教員相互の

授業参観の位置づけと目標

本学では、教育の質向上を目指しさまざまな取り組みがなされているが、教員相互の授業参観もその一つである。本学では教員同士が授業を見せ合い、意見交換をおこない授業改善につなげようとするこの試みを、「同僚(peer)による授業参観」からピアレビュー(peer review)と呼び、授業の質向上を目

1) 上武大学看護学部、2) 国際医療福祉大学

標としている。FD委員会ではピアレビューを2008年度から実施してきたが、各領域内での自主開催にとどまり、授業の質向上を目指すための効果的なピアレビューの方法を模索しているところであった。2008年度に実施したピアレビューの課題として、領域内でのピアレビューであったために、授業参観が自由にできなかったことが指摘されていた。また、2009年度のピアレビュー実施にあたり、事前に行なった「ピアレビュー実施に関する教員アンケート」において、ピアレビューの実施方法について尋ねたところ、「希望する教員が実施するのがよい」、「領域に関係なく授業参観を行うのがよい」、という意見が多かった。

そこで、これらの意見を踏まえ、2009年度のピアレビューにおける目標を、①領域を問わず他の教員がどのような授業を実施しているか知る機会とすること、②ピアレビューに対する教員の意識を高めること、の2点とし、領域を超えたピアレビューを実施することとした。また実施にあたり、授業改善を目指し、授業評価の視点をもって授業参観できるように、参観者用の記録用紙を作成したり、ピアレビュー後には教員間の意見交換を実施したりするなどの工夫を施した。また、ピアレビューが特別なイベントではなく、日常的に取り組める風土が学部内にできることを期待した。

Ⅲ. 実施方法

1. ピアレビュー実施の概要

- 1) 実施期間：平成21年12月7日（月）～平成22年1月22日（金）
- 2) 公開授業科目：領域および授業の形態（講義、演習など）を問わず、公開授業の希望者を募り、希望者の調整を行った後、FD委員会が公開授業一覧と公開授業の授業案を、学内イントラで情報提供した。
- 3) 授業参観の方法：授業参観は領域の制限なく自由に参加できるものとし、1教員1回以上とした。また、授業参観希望者は、授業担当者側の配布資料等準備のために、授業担当者に事前に申し出ることとした。
- 4) ピアレビュー実施手順：公開授業に必要な資料の準備から記録用紙提出までの流れは表1の通りとした。

2. 授業担当者の準備

- 1) 公開授業を希望する教員は、FD委員会担当者に公開授業科目名、日時の連絡をすると共に授業案（表2）を提出した。
- 2) 授業担当者用記録用紙（表3）と参観希望者からの連絡を受けて参観希望者分の授業資料を準備した。

3. 授業参観者の準備

- 1) 学内イントラに掲載された公開授業科目の授業案、授業参観者用記録用紙（表4）を各自印刷し使用した。
- 2) 授業参観者用記録用紙は、ピアレビュー後に実施される意見交換の後に授業担当者に提出した。

4. ピアレビュー後の意見交換会について

- 1) ピアレビュー後の都合の良い時間に、授業担当者が中心となり授業参観者と15～20分程度の意見交換を行った。意見交換にあたり、授業参観者は授業参観者用記録用紙を記入し授業担当者に提出した。
- 2) 授業担当者は意見交換の内容と、授業参観者用記録用紙を参考にし、授業担当者用記録用紙を記入し、全ての記録用紙をFD委員会に提出した。

5. 終了後アンケートの実施

- 1) 授業担当者と授業参観者に自記式のアンケートを実施した。
- 2) アンケート内容
 - (1) 授業担当者：公開授業の時期、公開授業を担当した理由、今後のピアレビュー方法等に関する意見・要望、ディスカッションに関する意見・要望など。
 - (2) 授業参観者：公開授業の時期、公開授業を希望されなかった理由、今後のピアレビュー方法等に関する意見・要望、ディスカッションに関する意見・要望など。
- 3) 倫理的配慮
アンケート調査への参加は自由であること、無記名であること等を説明し、アンケートの回収をもって同意と判断した。データは個人が特定されないように記号化・データ化して分析資料とした。

6. 教員研修会

ピアレビューを活性化させていくことを目標に、ピアレビューを振り返り、今後の課題を見いだすことを目的とした。

- 1) 授業担当者による実施報告
- 2) グループワーク：

テーマ「教育の質を高めるために」

授業担当者を囲んで、効果的なピアレビューのあり方などを討議した。原則として、自分が参加したピアレビューのグループに入り、今回のピアレビューに参加できなかった方はどのグループに入ってもかまわないこととした。

IV. 実施結果

1. 公開授業科目

授業担当希望者は1名のみであった為、FD委員会で選出した2名を加え3名の教員に授業公開を依頼した。看護学部の授業内容の特殊性から、授業形態は演習2科目と講義1科目であった。

2. 公開授業の概要

授業科目	授業形態	配当年次	担当者	参観者数
母性看護学方法論Ⅱ	演習	3年次	A講師	8人
保健福祉行政論Ⅱ	演習	3年次	B准教授	4人
基礎看護学援助論Ⅰ	講義	1年次	C助教	5人

3. アンケート結果

ピアレビューおよびピアレビュー後の意見交換に関するアンケートを行なった結果、授業担当者3名、授業参観者10名の回答が得られた。

1) 公開授業担当者の回答

公開授業の時期については、3名の回答が「適当」「適当でない」「どちらともいえない」の三者三様であり、「参観者のコメントを早々に次の授業に活かせるので、もう少し早い時期がよい」「授業公開日を任意に選べるとよい」などの理由が記述されていた。公開授業を担当した理由では、「授業を他者に公開することで、授業の質を向上させ、学生にとってよりよい学習環境を提供したいと常に考えているため。」「学生の授業態度、自分の授業方法に対して意見が欲しかった。」「委員会より依頼を受けて。」などの回答であった。今後のピアレビュー方法等に関する意見や要望では、「ピアレビュー担当者となって大変勉強になったので、自主的参加ではなく、全教員が前期・

後期に渡り、担当者となった方がよい。」との意見の他、教員の参観態度や参観に関わる手順等に対する要望が寄せられた。

15分程度行われたピアレビュー後の意見交換会については、「授業と授業の合間の時間なのでやむを得ないと思う。」という容認を含め、時間については概ね適当の評価であった。意見交換の内容は、「今後の授業の進め方、工夫、学生をどのように参加させるかについて、大変勉強になった」という意見があった一方、「参観者の価値観や感想と受け止め、授業の質向上に結びつかなかった」という回答も見られた。また、意見交換会の運営に関する意見も寄せられた。

2) 公開授業参観者の回答

公開授業の時期については、「適当」「適当でない」の評価が半数ずつに分かれた。「適当」の理由として、「実習期間でないので参加しやすかった」などの回答が多く、「適当でない」の理由では、学内の他行事と重なったことからくる負担感の記述が多く見られた。公開授業を希望しなかった理由では、「期間中に授業（講義）がなかった」が最も多く見られた。今後のピアレビュー方法等に関する意見や要望では、「いつでも自由に参観できる形式」「全教員が公開授業を実施する」「ピアレビューの機会を増やす」など積極的な意見が多かった。

ピアレビュー後の意見交換会については、時間に対する評価は「適当」「適当でない」に2分していたが、内容については、「自分の授業の参考になる。」「他領域の先生方の考え方を聞く機会となる。」など有効であったとの意見が多かった。しかし、「1対1の意見交換を充実させる必要もあったと思う。」「参考にしたい内容も随所に見られたので、じっくりお話を聞きたかった。」などの要望も寄せられた。

4. 教員研修会

1) 公開授業担当者による実施報告

公開授業の担当者から、実施後の感想やピアレビューのメリット・デメリット、ピアレビューに期待することなどの報告がなされた。報告の主な内容は、「普段の学生の様子を参観してもらい、教員・学生共に良い緊張感となった。」「参観者の先生方から貴重な意見が聞け、今後の教授方法の参考になった。」という肯定的な意見の他、「授業案の記載事項が多く負担であった。」「実施期間が短くエントリーしにくい。」「様々なスタイルでの参観があるが、授

業担当教員の意図に協力してほしい。」「いつでも参観できるようにしていただきたい。」など、今後の課題となる意見も多くあった。

2) グループワーク

公開授業担当者による実施報告をうけ、ピアレビューを活性化させていくことを目標に、「教育の質を高めるために」のテーマでグループワークを実施した。グループワークでは公開授業担当者を囲み、ピアレビューの結果を今後に向けて有効に活かすためにはどのようにしていく必要があるか、また、より効果的なピアレビューの実施方法はどのようなものであるか等を検討した。

グループワークの討議結果では、ピアレビューの結果を今後活かすためには、授業後のディスカッションが有効であり、観察の視点をもとにディスカッションを進行するなど、ディスカッションを充実させることの必要性が多く報告されていた。また、「自分の授業にどう取り入れていきたいか」との視点で意見交換することで、参観者も自分の授業を見直す機会となり有効であるとの報告がされた。また、ピアレビューを活性化させるためには、事前に授業担当者に参観の意思を伝えることでいつでも授業参観できるようにするなど、ピアレビューの手続きを簡略化し日常に取り入れる工夫が必要であるとの意見があった。しかしその反面、授業案に講義か演習、選択か必修、学生人数、参観時のお願いなどを明記し、授業者と参観者が共通認識することで、参観者も目的をもって参観できるようにする必要があるとの意見もあった。

V. 今後の課題

今回実施したピアレビュー、ピアレビュー後のディスカッション及びピアレビューの活性化を目標とした教員研修会を通して、いくつかの課題が見いだされた。そこでこれらの課題に対する解決策を検討した。

1. 実施時期と実施方法

本学における授業暦では、前期に各論臨地実習が集中しており、看護専門領域科目を担当する教員の多くが、実習指導と授業を並行して行っている実態がある。そのため、全ての教員が等しく公開授業担当や授業参観の機会を得るためには、後期の限られた期間のみになってしまう。今回も短期間での実施

であったことから派生した課題が散見された。

授業担当者や多くの授業参観者から、ピアレビューの期間を拡げたり日常化したりすることが要望されていた。また、授業担当者に求められる授業案作成や、授業参観者に求められる「授業参観者用記録用紙」への記入の負担感から、ピアレビューの手順や開催方法に改善を求める意見も複数寄せられていた。さらに、領域を越えて教育観や教育手法を共有するために討論会や研修会の機会を要望する声も多く見られた。

これらはピアレビューに対する関心の高さの現れであり、各教員が学生のレディネスを考慮した授業展開において、試行錯誤しながら苦慮している様子も垣間見られた。

そこで今後は、ピアレビューが負担なく恒常的に実施できるように、手続きを簡略化するなど実施方法を工夫していきたい。

2. ピアレビューにおける目的の共有化

今回、授業担当者と授業参観者との間でピアレビューの目的に対する認識の違いから、授業評価に繋がらず混乱をきたした場面があった。教育評価の視点からは、ピアレビューにより教員の多様な価値観や教育観について意見交換することで教育の巾を拡げることも重要である。しかし、授業担当者が用いた授業手法や授業展開の意図及び目的を十分理解しないままでの授業参観は、その後の授業評価においても、単なる価値観や教育観の押しつけと理解されてしまい、ピアレビュー本来の効果を得ることができないという事態を招いてしまった。看護の専門領域においては、着目すべき視点や、優先させたい教育内容が異なることもあるため、見解の相違として捉えられてしまう事象も発生する。そこで、少なくともピアレビューの目的が、教育内容・方法等の改善を目指していることを共通認識として持つ必要があるという課題が明らかになった。また、今回の授業参観においては、教員相互の授業評価の視点もとり入れるために、独自に作成した「授業参観者用記録用紙」への記入と、授業担当者に「授業参観者用記録用紙」をフィードバックするを行なった。これは、単に授業を同僚に公開し合う場を設けるのではなく、学生とは異なる視点で授業評価を行なうということも、ピアレビューの目的としているからであった。しかしこれらの目的が十分理解されない

まま、ピアレビューが実施されたことで、ピアレビューが有効に作用しなかったことは大きな課題となった。

そこで今後は、ピアレビューの目的や方法等について詳細な説明を行ない、教員相互の意思統一を図る機会を設けていきたい。

3. 演習授業の参観方法

看護学部における授業形態で演習を取り入れることは多い。看護専門科目における技術演習をはじめ、グループワークやロールプレイを取り入れた授業展開は、患者―看護師関係の構築やチーム医療における基本を学習するためには必要不可欠である。このような演習形態の体験型授業では、授業担当教員やアシスタント教員がファシリテーターの役割を持ち、参加者の相互作用によって本来の効果を発揮することが多い。そのため授業参観者がただの傍観者や評価者であると、グループワークなどで本来のグループダイナミクスが十分に発揮されずに、授業担当者の目的やねらいを達成できないことも危惧される。教員研修会においても、教員側の意図とは別に学生への影響が指摘されており、学生への事前説明の必要性も課題となった。

そこで今後は、看護学部の特徴でもある演習形態の授業参観の方法や授業評価の視点等について検討を重ね、改善策を提案していきたい。

VI. おわりに

2009年度におけるFD委員会活動において、ピアレビューは教育活動を向上させる取り組みの中核をなしてきた。FDとしての公開授業は全国的に広がりを見せているが、授業評価に否定的もしくは抵抗感を示す教員の存在が大きな問題とされており(八若, 2008) 公開授業に組織的に取り組むことが困難であ

る状況は散見される。しかしながら本学においては幸いなことに、ピアレビューに対する意欲の高さが伺われ、実施方法を工夫することで更に主体的な参加が期待できる。本学における公開授業は、田中の類型化によれば、同一学科内の教員同士がお互いの授業を見学し合うことで、授業内容を講義間で調整したり、教え方の調整を行ったりすることが可能なファカルティ連携型(田口, 2003)と呼ばれるタイプを目指しているといえる。看護学の専門各領域における連携は勿論のこと、専門基礎科目である医学・薬学・医療情報学領域とも密に連携することで、本学の特色ある教育目標が達成できるものとする。

今年度のピアレビューに関する一連の取り組みを通して明らかになった課題を踏まえ、次年度のFD活動がより有効かつ活発に行えるよう検討していくことが重要である。

文献

1. 文部科学省(2007)：大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行について
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm
2. 文部科学省(2008)：大学における教育内容等の改革状況について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/06/08061617.htm
3. 田口真奈, 藤田志穂, 神藤貴昭他1名(2003)：FDとしての公開授業の類型化 13大学の事例をもとに, 日本教育工学雑誌, 27, 25-28.
4. 八若保孝, 加我正行, 飯塚正他7名(2008)：北海道大学大学院歯学研究所・歯学部におけるFD活動, 高等教育ジャーナル 高等教育と生涯学習, 16, 153-159.

看護学部ピアレビュー実施手順：2009（表1）

日時	FD委員会	授業担当者	授業参観者
11月9日(月)	<input type="checkbox"/> 公開授業科目5名に満たない場合：FD委員会から依頼。 <input type="checkbox"/> 授業案：様式①のフォーマットを授業担当者へ送付。	<input type="checkbox"/> FD委員会(担当：渡部)に公開授業科目名，公開授業日時をメールで連絡。	
11月27日(金)		<input type="checkbox"/> 授業案：様式①を作成し，FD委員会(担当：渡部)にメールで提出。	
12月1日(月)以降	<input type="checkbox"/> 公開授業一覧，授業案を学内イントラにて情報提供。 <input type="checkbox"/> 授業担当者用記録用紙(様式②)，授業参観者用記録用紙(様式③)学内イントラに掲載。		<input type="checkbox"/> 授業参観希望を各自授業担当者に申し出る。
12月7日(月)～平成22年1月22日(金)		<input type="checkbox"/> 公開授業の実施 <input type="checkbox"/> 授業担当者用記録用紙(様式②)を各自印刷し使用。 <input type="checkbox"/> 授業で配布する資料等は，参観者人数分用意する。	<input type="checkbox"/> 公開授業への参観 <input type="checkbox"/> 授業案，授業参観者用記録用紙(様式③)を各自印刷し使用。
	<input type="checkbox"/> ピアレビューに関するアンケート配布 <input type="checkbox"/> ピアレビューに関するアンケート回収 <input type="checkbox"/> 授業担当者用記録用紙(様式②)，授業参観者用記録用紙(様式③)を回収。	<input type="checkbox"/> ディスカッションの進行 <input type="checkbox"/> ディスカッション終了後，授業参観者用記録用紙(様式③)を回収し，ディスカッションでの内容なども参考に，授業担当者用記録用紙(様式②)に記入する。 <input type="checkbox"/> 授業担当者用記録用紙(様式②)，授業参観者用記録用紙(様式③)をFD委員会に提出する。(コピーで可) <input type="checkbox"/> ピアレビューに関するアンケート提出。	<input type="checkbox"/> 授業参観者用記録用紙(様式③)に記入し，ディスカッションへ参加する。 <input type="checkbox"/> ディスカッション終了後，授業参観者用記録用紙(様式③)を授業担当者へ提出する。 <input type="checkbox"/> ピアレビューに関するアンケート提出。

平成21年度上武大学看護学部ピアレビュー公開授業

表2

「授業案」

授業科目名 _____ 平成 年 月 日 () 限

・講義 ・演習 授業担当者 _____

項 目	内 容
本授業の位置づけ	
単元目標	
授業内容等	
授業観察において 要望する評価項目	

氏名 _____

表3

看護学部ピアレビュー 授業担当者用記録用紙

観察(把握)表

観察の視点	自己評価：工夫した点・疑問や課題が残った点	ディスカッションで得られた学び
<p>1, 授業技術に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学生の興味・関心・知識や経験(レディネス)に配慮した導入 ② 新しい知識となる理論や専門用語をわかりやすく説明 ③ 授業者の声の大きさ、発音の明瞭さ、話すスピード、問の取り方 ④ 授業者の適切な視覚情報(アイコンタクト、顔の表情, ジェスチャ, 姿勢など) ⑤ 授業者の効果的なメディア利用(黒板, 配布資料, OHP, ビデオなど) 		
<p>2, 授業運営・構成に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業者と学生との適切なコミュニケーション(発問, 指示の仕方, 巡視等) ② 授業の適切な雰囲気作り ③ やる気のない学生, 寝る学生への対応 ④ 導入, 展開, まとめを組み立ての工夫 ⑤ 適切な進度 ⑥ 例示, 演示の工夫 ⑦ 学生が考える演習や課題の工夫 		
<p>3, 学生の参加度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 意見や質問を出させる取り組み, 工夫 ② 私語をさせない取り組み, 工夫 ③ 意見や質問を出させる取り組み, 工夫 ④ 遅刻や早退をさせない取り組み, 工夫 ⑤ 宿題, 課題に積極的に取り組みさせる工夫 		

看護学部ピアレビュー 授業参観者用記録用紙 表4 氏名 _____
 観察(把握)表

観察の視点	疑問に思ったこと, 参考になったこと
1, 授業技術に関すること ①学生の興味・関心・知識や経験(レディネス)に配慮した導入 ②新しい知識となる理論や専門用語をわかりやすく説明 ③授業者の声の大きさ, 発音の明瞭さ, 話すスピード, 問の取り方 ④授業者の適切な視覚情報(アイコンタクト, 顔の表情, ジェスチャ, 姿勢など) ⑤授業者の効果的なメディア利用(黒板, 配布資料, OHP, ビデオなど)	
2, 授業運営・構成に関すること ①授業者と学生との適切なコミュニケーション(発問, 指示の仕方, 巡視等) ②授業の適切な雰囲気作り ③やる気のない学生, 寝る学生への対応 ④導入, 展開, まとめを組み立ての工夫 ⑤適切な進度 ⑥例示, 演示の工夫 ⑦学生が考える演習や課題の工夫	
3, 学生の参加度に関すること ①意見や質問を出させる取り組み, 工夫 ②私語をさせない取り組み, 工夫 ③意見や質問を出させる取り組み, 工夫 ④遅刻や早退をさせない取り組み, 工夫 ⑤宿題, 課題に積極的に取り組みさせる工夫	